

KDreader for Windows 簡易マニュアル



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

概要

KDreader for Windows はベクターデータとラスターデータを表示するビューアソフトです。
ベクターデータは、イメージに展開せずベクター表示します。

特長

【入力】

- ・以下のベクターデータの表示に対応しています。
HP-GL, HP-GL/2, OFI, GERBER, DXF, DWG
Calcomp907/925, Dscan, Drastem, VCGL, VRF
- ・ベクターデータはイメージに展開せず、ベクターで表示します。
- ・国内外で広く利用されているラスター(イメージ)データの表示に対応しています。

【ベクターデータについて】

- ・ペン番号、色番号による線幅、色(カラー出力時のみ)の設定が可能です。
- ・HP-GL/2、OFI データのラスター/ベクター混在データをサポートしています。
- ・CAD データ (DXF, DWG) の読み込みには複数の制限があります。
- ・標準 GERBER (RS-274D)、拡張 GERBER データ (RS-274X) をサポートしています。
アパーチャデータの指定が可能です。

【表示】

- ・入力データのサイズ情報をミリメートル(mm)で表示します。
- ・複数の入力データを必要に応じて同時に表示することができます。(マルチウィンドウ対応)

【印刷】

- ・表示データの印刷が可能です。
- ・自動印刷処理(表示画面無し)が可能です。
指定フォルダを監視してファイルを認識すると自動的に印刷します。

【データ処理】

- ・ベクターデータについてはプログラムに拡張子を登録することにより認識します。
ラスターフォーマットデータは自動認識します。
- ・モノクロ/カラー双方のデータ形式の表示に対応しています。
- ・マルチページの表示に対応しています。
- ・全体表示、マウスドラッグによる拡大・縮小表示を行うことができます。
- ・スクロールバーによる画面移動を行うことができます。
- ・表示データの回転(90度単位)を行うことができます。

【その他】

- ・API を利用してその他のアプリケーションから呼び出すことが可能です。
- ・プログラムを起動してウィンドウエリアにファイルをドラッグ&ドロップすることで表示できます。
デスクトップ上にプログラムのショートカットを作成しドラッグ&ドロップすることで表示できます。
ファイルの種類(拡張子)からの起動プログラムに指定することでファイルをクリックするだけで表示することができます。
- ・OLE 機能を利用して MS-Word, MS-Excel に表示データの貼り付けが可能です。

動作環境

- ・ Windows XP
- ・ Windows Vista
- ・ Windows 7
- ・ Windows 8
- ・ Windows 8.1
- ・ Windows 10

サポートフォーマット

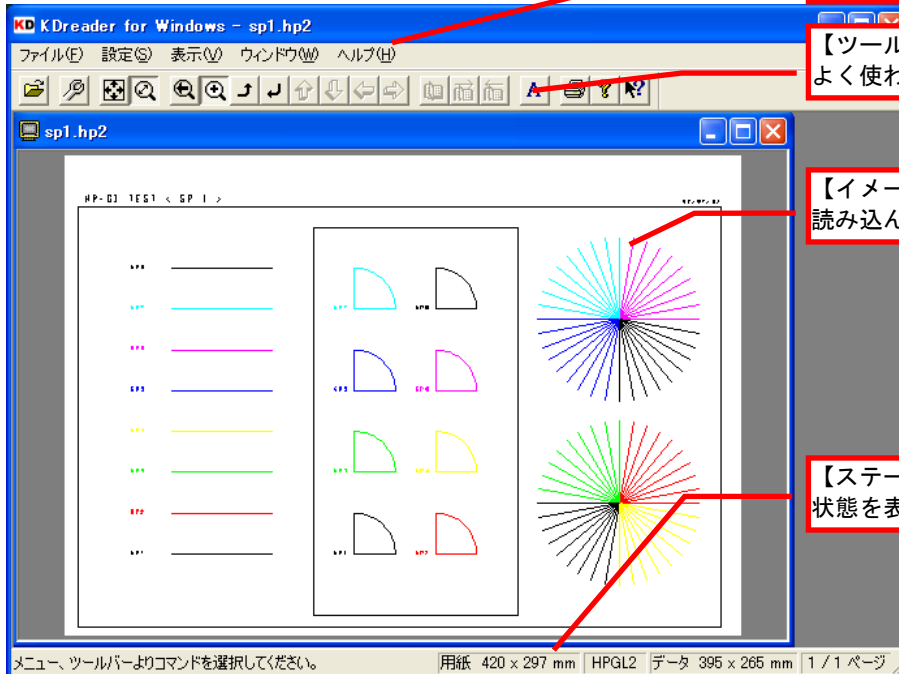
【ベクターフォーマット】

DWG
DXF
HP-GL
HP-GL/2
Drastem
Dscan
Calcomp907
Calcomp925
OF1
VCGL
VRF

【ラスターフォーマット】

TIFF (非圧縮, PackBits, G3-1D, MH, MR, MMR, LZW)
XWD
BMP (非圧縮)
MR
MH
MIE-L
JPEG
SunRaster
IOCA
NSXPRESS (G3, G4)
PCX
FX-Raster
TOSFILE (MH, MR, MMR)
GIF

基本画面



【メニューバー】
選択されたメニューを実行します。

【ツールバー】
よく使われるメニューのボタンです。

【イメージビュー】
読み込んだ図面が表示されます。

【ステータスバー】
状態を表す情報が表示されます。

メニュー

◇ ファイルメニュー

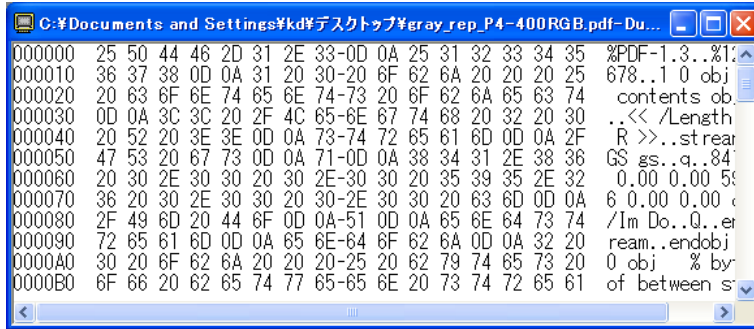
【開く】

既存の図面を開きます。一度に複数の図面を開くことができます。

複数の図面の編集を切り替えるには、

[ウィンドウ]メニューの【ウィンドウ名 1, 2, 3, ...】

コマンドを使ってください。認識できないファイル等のエラー発生時は、下記のデータダンプを表示します。



【名前を付けて保存】

現在開いている図面を別のファイル名で保存します。(複写と同等処理)

【書き出し】

現在開いている図面をメタファイルまたは拡張メタファイル形式で保存します。

【閉じる】

現在開いている図面を閉じます。

【印刷】

図面を印刷します。

【プリンタの設定】

プリンタの選択や接続を設定します。

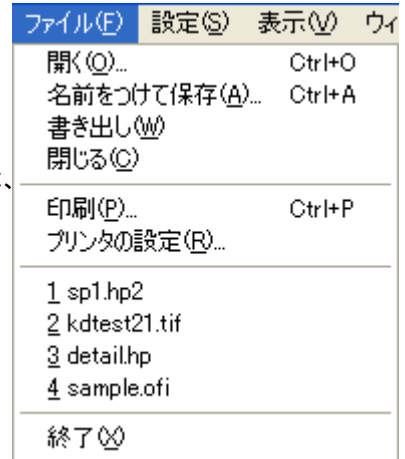
【ファイル名 1, 2, 3, ...】

以前、開いた図面を開きます。

[ファイル]メニューの下部には、直前に閉じたファイル名が番号とともに4つまで表示されます。

【終了】

KDreader for Windows を終了します。



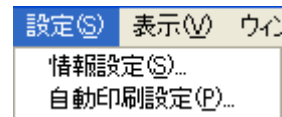
◇ 設定メニュー

【情報設定】

属性ファイル、色情報、用紙サイズ等の設定を行います。

【自動印刷設定】

自動印刷機能の設定を行います。



◇ 表示メニュー

【ウィンドウサイズ切り替え】

ウィンドウの表示方法を「用紙/全体」へ切り替えます。
図面の表示枠を「用紙サイズ/ウィンドウ全体」と切り替えます。

【図面全体表示】

データの表示方法を用紙枠全体または実寸へ切り替えます。
図面の表示を実寸表示するか表示枠いっぱいに図面全体が収まる様に自動スケーリングして表示を行うかを切り替えます。

【初期表示】

拡大・移動した図面の表示を元に戻します。
「拡大/移動」された画面を最初の表示状態に戻します。
「回転」は戻りません。

【拡大表示】

図面を対角 2 点指示で拡大します。

【回転 (CCW)】

図面を反時計回りに 90 度回転させます。

【回転 (CW)】

図面を時計回りに 90 度回転させます。

【上移動】

図面を上方向へ移動させます。

【下移動】

図面を下方向へ移動させます。

【左移動】

図面を左方向へ移動させます。

【右移動】

図面を右方向へ移動させます。

【テキストスタンプ】

テキストスタンプの配置/編集を行います。

【ページ指定】

複数ページから構成されている図面の表示ページを切り替えます。

【次ページ】

図面の表示ページを 1 ページ進めます。

【前ページ】

図面の表示ページを 1 ページ戻します。

◇ ウィンドウメニュー

【重ねて表示】

開いている図面を重ねて表示します。

【並べて表示】

開いている図面が重ならないように並べます。

【アイコンの整列】

最小化しているウィンドウを整列します。

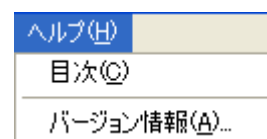
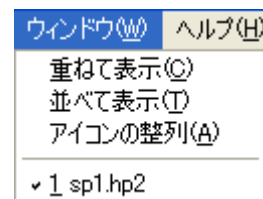
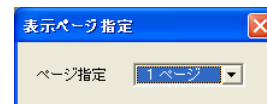
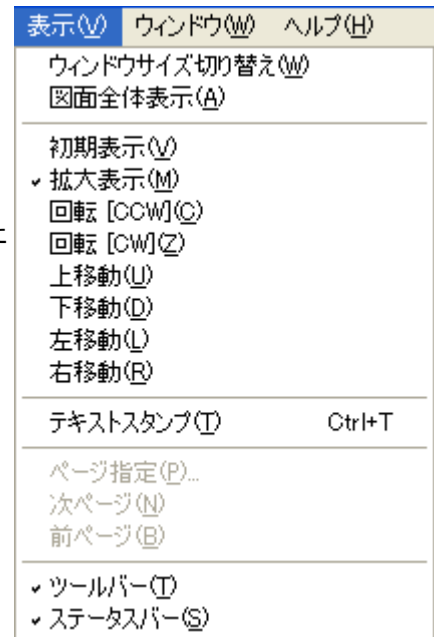
◇ ヘルプメニュー

【目次】

ヘルプファイルを開きます。

【バージョン情報】

バージョン情報を表示します。



ツールバー



A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S

A: 既存のデータを開きます。『開く』ダイアログからファイルを選択します。

B: 『情報設定』ダイアログを開きます。

C: 図面の表示サイズの基準を『用紙サイズ/ウィンドウ全体』で切り替えます。

D: 図面の表示を『実寸』で行うか、画面全体が収まるよう『自動スケーリング』するかを切り替えます。

E: 『拡大/移動』された図面を初期表示状態に戻します。※『回転』は元に戻りません。

F: 対角2点による範囲指定で図面を拡大表示します。

G: 図面を反時計回りに90°回転します。

H: 図面を時計回りに90°回転します。

I: 図面を上方向に移動します。※1

J: 図面を下方向に移動します。※1

K: 図面を左方向に移動します。※1

L: 図面を右方向に移動します。※1

M: 図面の表示ページを指定します。※2

N: 表示ページを1ページ進めます。※2

O: 表示ページを1ページ戻します。※2

P: 『テキストスタンプ設定』ダイアログを開きます。

Q: 図面を印刷します。

R: アプリケーションのバージョン情報を表示します。

S: 指定コマンドのオンラインヘルプを表示します。

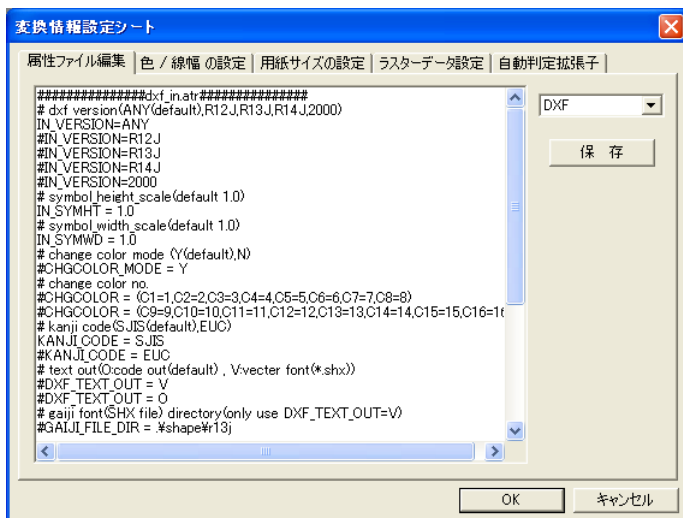
※1: 『図面全体表示』を行っている場合は、選択できません。

※2: 図面がマルチページで構成されている場合に、選択できます。

変換設定

◇ 属性ファイル編集

各フォーマット図面の入力属性を変更します。
ここで行った変更は、次回の読み込み時より有効となります。



◇ 色 / 線幅 の設定



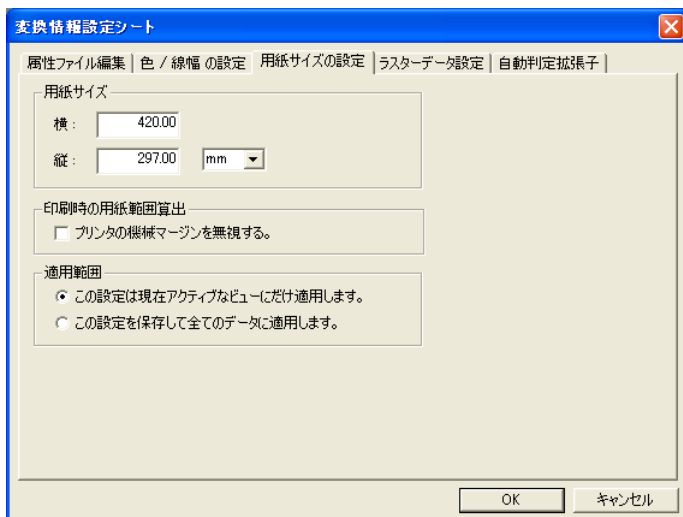
【カラーテーブル設定】

画面に表示する色を色番号ごとに設定します。ここで変更した内容は全ての図面に反映されます。
カラーテーブルを初期状態に戻す場合は初期化ボタンをクリックしてください。

【線幅変換設定】

[線幅変換設定]を有効にすることで、線幅の値を持たないデータに対して色を線幅に置き換えて表示します。線幅の指定のあるデータは、この設定値は全て無効となります。

◇ 用紙サイズの設定



【用紙サイズ】

図面を表示する用紙枠のサイズを変更します。

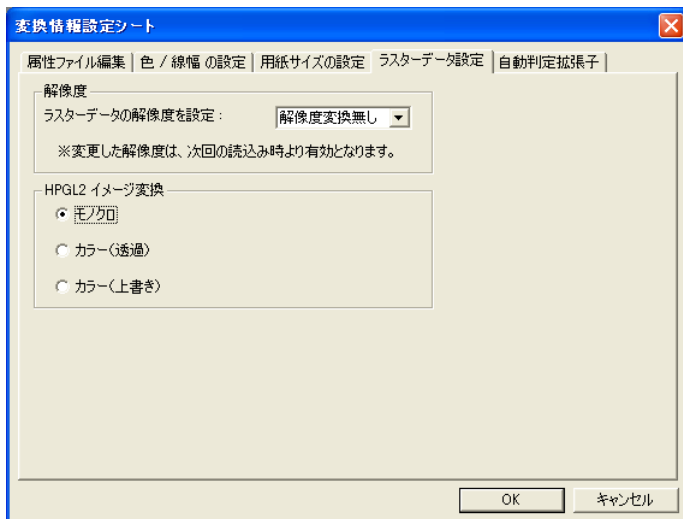
【印刷時の用紙範囲算出】

プリンタの機械マージンを無視します。

【適用範囲】

用紙サイズの設定を適用する範囲を指定します。

◇ ラスターデータ設定



【解像度】

ラスターデータの読み込み時の解像度を設定します。
「解像度変換無し」を選択するとデータ本来の解像度にて読み込みます。
※解像度を上げるとデータの処理(読み込み、描画)速度が遅くなります。

【HP-GL/2 イメージ変換】

HP-GL/2 データがベクター・ラスター混在している場合には、ラスターデータへ変換してから表示しますが、その際のラスターへの変換形式を指定します。

- ・モノクロ
モノクロのラスターへ変換します。
- ・カラー(透過)
重なっている部分を透過してカラーのラスターへ変換します。
- ・カラー(上書き)
重なっている部分を上書きしてカラーのラスターに変換します。
HP-GL/2 のデータ順によっては、ベクターデータとラスターデータの重なっている部分が欠ける場合があります。

◇ 自動判定拡張子

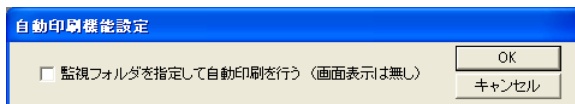


自動判定処理にて使用する拡張子を設定します。
各フォーマットで、最大8個の拡張子を指定できます。
指定できる文字数は、4文字までです。

- ・初期化
現在カーソルのあるフォーマットの設定をインストール時の状態に戻します。
- ・全て初期化
全てのフォーマットの設定をインストール時の状態に戻します。

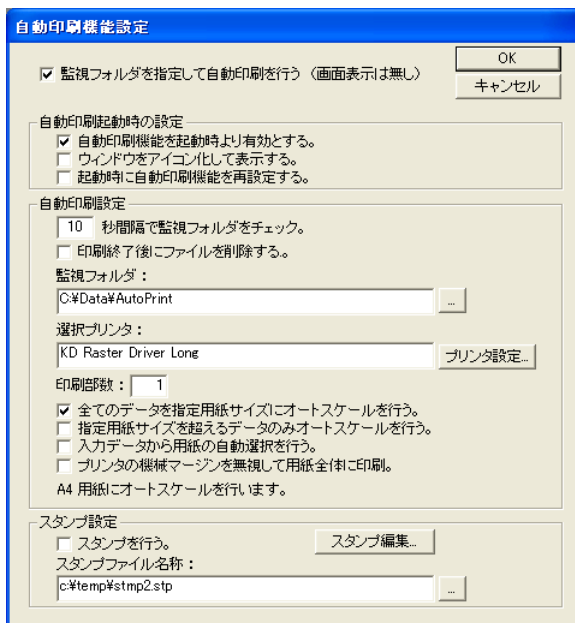
自動印刷機能

データの画面表示を行わずに、指定フォルダ内にあるデータを全て印刷します。
※OLE サーバーとして使用中は、自動印刷機能は停止状態となります。



【監視フォルダを指示して自動印刷を行う】

チェックを有効にすると下記の自動印刷機能設定ダイアログが表示されます。



◇ 自動印刷起動時の設定

【自動印刷機能を起動時より有効とする。】

この設定を有効にすると、次回の KDreader 起動時より自動印刷モードで動作します。

【ウィンドウをアイコン化して表示する。】

「自動印刷機能を起動時より有効とする。」の設定を行った場合に選択可能となります。
KDreader をアイコン化して表示します。

【起動時に自動印刷機能を再設定する。】

「自動印刷機能を起動時より有効とする。」の設定を行った場合に選択可能となります。
次回起動時に、当該ダイアログを表示します。
初回印刷を行う前に、自動印刷設定を変更できます。

◇ 自動印刷設定

【「」秒間隔で監視フォルダをチェック。】

印刷監視フォルダのチェック間隔を、秒単位で指定します。

【印刷終了後にファイルを削除する。】

監視フォルダの印刷が終了した後、フォルダ内のファイルを削除するかどうかを指定します。
チェックを有効にした場合は、印刷後にファイルを削除します。
チェックを無効にした場合は、指定フォルダの下に (EndPrint) フォルダを作成しファイルを移動します。

【監視フォルダ】

監視フォルダを指定します。右横の『ブラウザボタン』から参照できます。

【選択プリンタ】

プリンタドライバを指定します。

【プリンタ設定】

プリンタドライバの選択、及び設定を行います。

【印刷部数】

印刷部数を指定します。

【全てのデータを指定用紙サイズにオートスケールを行う。】

チェックを有効にした場合、プリンタ設定ダイアログで指定した用紙サイズに、
オートスケールを行って印刷します。(用紙いっぱいには拡大・縮小されず)

【指定用紙サイズを超えるデータのみオートスケールを行う。】

チェックを有効にした場合、プリンタ設定ダイアログで指定した用紙サイズを超えるデータのみ、
オートスケール(用紙いっぱいには縮小)を行って印刷します。
用紙サイズをオーバーしないデータは、そのまま印刷します。

【入力データから用紙の自動選択を行う。】

チェックを有効にした場合、データサイズから用紙サイズ(データサイズに最も近いサイズ)を
自動選択して、印刷を行います。

【プリンタの機械マージンを無視して用紙全体に印刷。】

チェックを有効にした場合、プリンタの機械マージンを無視して用紙全体を印刷範囲とします。

◇ スタンプ設定

【スタンプを行う。】

チェックを有効にした場合、スタンプを指定位置に合成して、印刷を行います。

【スタンプファイル名称】

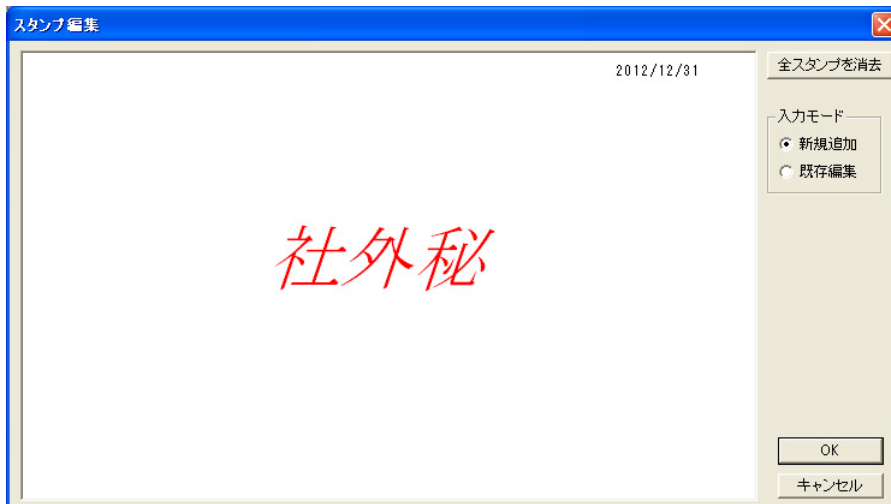
スタンプデータを保存/参照する『スタンプデータファイル』を指定します。

【スタンプ編集】

スタンプ編集ダイアログを開き『スタンプファイル名称』で指定した
スタンプデータファイルをロードします。
『スタンプファイル名称』が、新規ファイルを示している場合は、
直前にロードしたスタンプデータを、初期データとして引用します。

◇ スタンプ編集ダイアログ

スタンプデータの編集を行います。



【全スタンプを消去】

ロードされた全てのスタンプを消去します。

【入力モード】

- ・新規追加
新規にテキストスタンプを追加します。
スタンプウィンドウの中でクリックした位置に、テキストスタンプを追加します
- ・既存編集
配置されているテキストスタンプの位置や内容を変更します。
対象のテキストをドラッグすることで、位置を修正できます。
内容を編集するときは、テキストをダブルクリックします。

【スタンプウィンドウ】

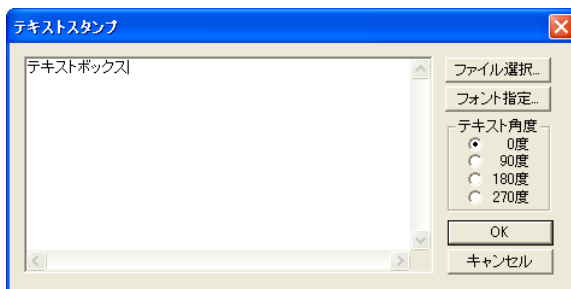
このウィンドウは、A版サイズ用紙の縦横比率を模しています。
実出力用紙の縦横比率によっては、配置したスタンプが意図しない位置に印字されることがあります。

【スタンプデータの保存】

- ・OK
指定したスタンプファイルに、スタンプデータが保存されます。
- ・キャンセル
編集内容は保存されません。

◇ テキストスタンプダイアログ

テキストスタンプデータの詳細設定を行います。



【ファイル選択】

テキストを読み込むテキストファイルを選択します。

【フォント指定】

スタンプのフォントやサイズ、色などを指定します。

【テキスト角度】

テキストの配置角度を指定します。

【設定内容の保存】

- ・OK
設定内容を保存します。
- ・キャンセル
設定内容は保存されません。

◇ 印刷ログ

自動印刷実行時には下記のような印刷ログウィンドウを表示します。

```
自動印刷ログ
KReader For Windows Auto Print Log File
2007年 12月 10日(Monday) AM 09時 40分 01秒

=====
ファイル名 ---> [C:\tmp\data\house.dxf]
開始時刻 2007/12/10 AM 09:40:11
[ DXF ] ページ (1) データサイズ 巾 (478 mm) 高 (256 mm)
終了時刻 2007/12/10 AM 09:40:15
=====
ファイル名 ---> [C:\tmp\data\master.tif]
開始時刻 2007/12/10 AM 09:40:25
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (1) データ 4965 x 6990 dot
終了時刻 2007/12/10 AM 09:40:30
=====
ファイル名 ---> [C:\tmp\data\spl.hp2]
開始時刻 2007/12/10 AM 09:40:40
[ HPGL2 ] ページ (1) データサイズ 巾 (395 mm) 高 (265 mm)
終了時刻 2007/12/10 AM 09:40:42
=====
ファイル名 ---> [C:\tmp\data\元図形_a_m.tif]
開始時刻 2007/12/10 AM 09:40:52
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (1) データ 3496 x 4960 dot
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (2) データ 4960 x 3496 dot
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (3) データ 3496 x 4960 dot
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (4) データ 4960 x 3496 dot
終了時刻 2007/12/10 AM 09:41:03
=====
ファイル名 ---> [C:\tmp\data\元図形_b_m.tif]
開始時刻 2007/12/10 AM 09:41:13
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (1) データ 3496 x 4960 dot
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (2) データ 4960 x 3496 dot
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (3) データ 3496 x 4960 dot
[ TIFF(G4) / 600dpi ] ページ (4) データ 4960 x 3496 dot
終了時刻 2007/12/10 AM 09:41:24
```

※印刷用紙への図面配置は、用紙長辺とデータ長辺を合わせるように行います。

制限事項

- ・ HP-GL/2 イメージ変換の【カラー】選択時、「透過」、「上書き」で対応できる用紙サイズは、最大 A0 までです。また、変換に時間がかかる場合があります。
- ・ カラーデータを表示する場合、モノクロデータの表示と比べて制限があります。
- ・ マルチページを表示する場合、シングルページの表示と比べて制限があります。ページ数の多いマルチページデータは表示できない場合があります。